法話　ご親教「念仏者の生き方」をいただいて

阿弥陀仏の薬

ご親教「念仏者の生き方」をいただいて

第25代専如ご門主は伝灯奉告法要の初日（2016年10月1日）に、ご親教「念仏者の生き方」を示されました。浄土真宗のみ教えに生きる私たちの指針として示されたこのご親教のこころをいただこうと、「ご親教『念仏者の生き方』をいただいて」と題し、行信教校講師の天岸浄圓さん（大阪市東住吉区・西光寺住職）に執筆していただきました。

行信教校講師　天岸　浄圓

え・ひじ　みえ

教えより形が伝わった現状

ご親教を「念仏者の生き方」と題されたことに、ご門主の強いご意志がうかがえます。ご親教には、宗祖・親鸞聖人が80歳の時に門弟に宛てて綴られたご消息（お手紙）が現代語訳し、引用されます。

「（あなた方は）今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」

このお言葉は、10期80日間の伝灯奉告法要で「拝読文」としても唱和されました。

そもそも宗教とは、人の正しい生き方と、正しい死の受け容れ方を明らかにするものです。ところが現代の日本仏教は、大きく死に偏ったアンバランスな状況といえます。

浄土真宗は親鸞聖人より、約800年の歴史を経ています。本願寺は25代、各地の真宗寺院も世代を重ね、ご門徒の多くは、先祖代々により浄土真宗を伝えてこられました。その伝統はありがたいことですが、教えより形式が伝わったという現状は改めねばなりません。

あらためて「自分はなぜ浄土真宗なのか」「なぜ阿弥陀さまなのか」を自身に尋ねてみるべきでしょう。さて、はっきりとした答えがでますか。もし「……？」ならば大問題で、基本からのスタートが必要です。

恥ずかしい生き方の自覚

現代は何を拝んでもよい時代です。しかし、拝む意味がわからなくなった時代でもあります。一体、拝むとはどういうことなのか、そのヒントが親鸞聖人のご消息のお言葉でした。

ご消息の「すべての人びとを救おう」とは、すべての人びとをしあわせにしようとすることです。人を悲しませず、悲しむ人の苦悩を共に超えようとする心を持つということです。

しかし私は、自分が誰よりもしあわせでありたい。自分に縁の深い人がしあわせであってほしい。でも、「すべての人びとを」と考えたことがありますか。おそらく、ないでしょう。

反対に、他人が豊かでしあわせに見えれば、敗北感、劣等感に苛まれ、心の底に妬みが渦巻いていませんか。逆に自分が豊かであれば、優越感に浸って他を軽んじてはいませんか。その劣等感と優越感の狭間を行き来しつつ、愛憎に悶える生き方を「不幸」というのです。

そんな私が「すべての人びとを救おう」といわれた仏さまのお心を聞いて、仏さまに心から感動し、尊重し、それを目指す…。それこそが阿弥陀さま、仏さまを拝ませていただく、何より の理由です。それは、自己中心から仏さま中心に生きようと心が転換しはじめた姿なのです。これを「回心」といいます。

さらに「愚かなる無明の酔いも次第にさめ」と、お言葉は続きます。仏さまを拝むことは、今までの自分の生き方がいかに自己中心で、浅ましく、愚かであったかを知らされることでもあります。そこに「凡夫」という慚愧の意識が生まれます。「凡夫」とは、「恥ずかしい生き方」の自覚です。その自覚は、必ず恥ずかしくない行動につながります。でなければ、ただ言葉だけで本当は恥ずかしくないのです。

無明をさます真宗の「救い」

たとえば、女性がストッキングを履かれるでしょう。外出した時、ふと自分の伝線に気づきました。「アッ」どうします。必ず目立たないように工夫されるでしょう。どうにもならない時には、コンビニで新たに買い求められるでしょう。決してこのままでいいとは思えないでしょう。

恥ずかしい意識は、少しずつですが恥ずかしくないようにと、生き方が変化するはずです。変化がまったくないのは「回心」が成立していないといっていいでしょう。心は以前のまま、我がままのまま、無明のままです。ただ、浄土真宗の知識を得たことと、信心とを錯覚したに過ぎません。

さらに「阿弥陀仏の薬をつねに好む身」となると述べられます。阿弥陀さまはお念仏の薬となって私に届き、私を治療してくださいます。「薬」はのむ（服用する）もので、効能を憶えても効きません。南無阿弥陀仏の薬が無明の愚かさを少しずつさまし、「むさぼり・いかり…」という、身の毒から少しずつ離れさせて、仏さま中心の生き方へと、転換するよう育んでくださいます。それを浄土真宗の「救い」というのです。

※ご門主ご親教「念仏者の生き方」の全文は本願寺ホームページ（http://www.hongwanji.or.jp/）に掲載しています